

無料サンプル章

『なぜ、この国の先生は 疲れはてているのか？』

—台湾との比較で見えた、「評価」を「鑑賞」に変える学習鑑賞ポ
ートフォリオ—

はじめに

本書にご興味をお持ちいただき、誠にありがとうございます。このサンプルでは、書籍の導入部である「序章」を全文公開いたします。なぜ、日本の子どもと教師はこれほどまでに苦しんでいるのか？ その問題の根源に迫る旅を、ここからご体験ください。もし、この問題意識に共感いただけましたら、具体的な解決策を提示する本書を、ぜひお手に取っていただければ幸いです。

序章：なぜ、日本の子どもと教師は苦しいのか？

入学難、試験地獄、就職難等で一千万の児童や生徒が修羅の巷に喘いで居る現代の悩みを、次代に持越させたくないと思ふと、心は狂せんばかりである。

——牧口常三郎『創価教育学体系』（創価教育学会・富山房、1930年 - 1934年刊）

玄関のドアが開く音。続いて、ランドセルを床に置く、重く引きずるような音。リビングに入ってきた我が子の顔には、朝の元気な「ってきます！」の面影はありません。どこか疲れ、こわばった表情。宿題と塾のテキストが詰め込まれたカバンが、その小さな背中にずしりと食い込んでいたことを物語っています。

「学校、楽しかった？」

そう問いかけながら、私たちは胸の奥に小さな、しかし無視できない不安を感じています。いじめられてはいないだろうか。勉強についていけないだろうか。将来、この子は激しい競争社会で生き抜いていけるのだろうか——。

…（中略）…

なぜ、この国の先生は疲れはてているのか？そして、その先で苦しんでいる子どもたちを、私たちはどうすれば本当の意味で幸福にできるのか？さあ、その答えを探す旅を、ここから一緒に始めましょう。

この続きは、ぜひ書籍でお楽しみください。

第1章以降では、

【衝撃のデータ】なぜ日本の教師だけが突出して多忙なのか？台湾との比較でその構造を解き明かします。

【具体的解決策】AIを活用した「学習鑑賞ポートフォリオ」が、いかにして教師を評価業務から解放し、子どもたちの主体性を引き出すのか？

【家庭での実践】親が「評価者」から「最高の伴走者」になるための、明日からできる具体的なステップとは？

▼今すぐAmazonで購入する

<https://amzn.to/45ohVqZ>

